



株式会社はなおか

2021年3月11日

代表取締役

花岡 秀芳

1. 企業概要

2. 経営・地域・環境課題への取り組み

3. 地域の脱炭素と地方創生の実現

4. 国・自治体に対するお願い

事業概要

注文住宅会社（売上高の90%）

徳島県注文住宅着工戸数

16年連続1位

売上高	年間引渡し棟数
44.0億円 (R1.7/1 ~ R2. 6/30)	177棟

社員数

社員71名 + 専属大工さん55名



【会社の基本】

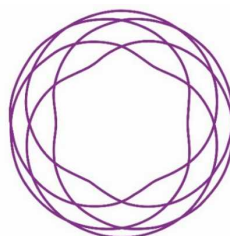
経営理念	「正直に王道を行く」
社訓	「親切に 丁寧に きっちりと」
社風	「自由 活発」

【会社の目標】

お客様に感動される会社になる
社員の人間力を高める



中小企業基盤整備機構四国本部長賞（四国経済産業局）



地域未来牽引企業

経済産業省（2020年）



徳島県 BCP認定企業（2015年～）



外務省HP取り組み事例企業に登録（2021年）



日本SME格付け
S&P Global Market Intelligence
14年連続取「aa」（2020年10月時）



とくしま協働の森づくり事業

人口減少 職人不足

急速な少子高齢化と人口減少。住宅着工数が右肩下がり減少。
建築現場の担い手不足。**大工さんが少ない。特に若い大工さんはほぼ、いない。**
職人さん（基礎・屋根・電気・左官・タイル・土木工事）が特に少ない。

競争激化

県外資本の企業も進出し競争激化。
今後、職人の奪い合いが起きて
「現場におけるモラルや技術力の低下・賃金の上昇」が見込まれる。

建築価格上昇

職人不足による賃金上昇
建築資材の価格上昇
建築価格に反映され、お客様の負担が増える。

生産性向上

木造住宅は**ハンドメイド**。生産性向上が難しい。
情報化戦略の推進により、ITツールの導入を進めているが
業界的にIT弱者や零細企業が多く、全社・業者さんへの浸透が課題。

良い点

屋根貸し 再生可能エネルギー 利用拡大へ

「実質ゼロ円太陽光 年間87棟の実績」
今後、「蓄電池や電気自動車（EV）との連携拡大」
実証モデルハウス 令和3年10月にオープン

- ・太陽光発電（PV）のコストは大幅低下
- ・大手民間企業の取り組みにより再生可能エネルギーの採用が大きく増加

住宅の省エネ性向上へ

ZEH事業の積極的活用
（実績：徳島県第1位）

- ・補助金の効果が大きい
- ・市場も動き出している
- ・生活環境の向上

高性能住宅と 住まい方

全棟 基本性能
ZEH+レベルの住宅へ

- ・災害に強い家づくりの提案
- ・最先端省エネ機器類の提案
- ・ヒートポンプ 約10年前よりほぼ全棟採用
- ・エアコン1台で快適に住める家づくり
- ・計画換気システムの重要性が高くなる

悪い点

- ・爆発的な拡大の為には、蓄電池や余剰電気の融通をし易くなる環境整備が必要不可欠
- ・他業界との連携によるビジネスモデルの構築が未熟

- ・ZEHの期間が短すぎる
- ・木造在来軸組工法の特性上工期が長く
- ・人手不足により苦しんでいる。

- ・省エネ等級4では断熱水準として不十分
（脱炭素に必要なレベルへの大幅な引き上げが必須）
- ・C値の気密測定の時期が各社バラバラで発表。数値の信頼性が悪化。

- 方向性は正しいと考えています。実現も可能だと思っています。実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

□キーワード

- 官民、民間異業種企業とのネットワーク構築
- お客様への訴求
- 学びや体験の機会を創出



図：2021年10月発表モデルハウス CRASのコンセプト

伝えたいこと

人手不足

住宅ロードマップを現場で実行するための人手不足が今後益々、深刻になる
特に地方では大工さん、職人探し
が厳しく高齢化も進んでおり入職者も少ない

小規模工務店の 生き残り

住まいの高性能化に取り残される一部の小規模工務店や大工さんの仕事が無くなり廃業にいたる。
地方を中心に過疎地域、山間部等の災害時の家守りが不在になる

EV・蓄電池の 浸透が遅い

- ・民間異業界（住宅会社・自動車業界）の連携は皆無
- ・お客様の理解や認知度が低く、且つ未来像を把握出来ていない

現状

要望事項

各企業同士の連携は、ほぼ皆無。
建設労働組合等も動き出している職人専門の紹介会社も出てきているが・・・

いずれも継続性に疑問あり。
国主導でスキームを策定して長期に渡る実効性を担保しないと今後、現場での職人不在。

何らかのセーフティーネットやアワードを考えてあげて欲しい

自治体や民間企業、民間異業種との連携を行政が主導して欲しい



より環境にやさしい
省エネルギー住宅を提供します。



01 ZEH(※)への取り組み

はなおかでは、環境負荷の少ない住宅の提供・開発、クリーンな再生可能エネルギーの普及に加え、CO2削減に寄与しています。

2016年度から経済産業省により開始されたZEH住宅事業への取り組みを、はなおかでは積極的に行っていました。環境にやさしい、省エネルギー住宅の提供を行ってきた結果、2019年度ZEH認定取得物件数(4～12月分)において24棟の着工引渡し(徳島県内のZEH認定数割合にて約32%のシェア)という実績を得ることができました。

また、政府は、より高度なZEHとして『ZEH+ (ゼッチプラス)』を定義しており、性能を向上させた住宅に補助金を交付する制度を創設。2020年度においては、全国で200戸の枠に対し、今までの実績が考慮され、はなおかでは8棟の割り当てをいただきました。今後もZEH住宅事業を推進してまいります。

(※)→ZEH: Net Zero Energy House (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)とは、『高い断熱性能と高効率設備による可能な限りの省エネルギー化と再生可能エネルギーの導入により、年間での一次エネルギー消費量が正味(ネット)でゼロまたは概ねゼロとなる』家のこと。

02 資源分別徹底 再資源化率向上へ



2001年より建築現場残材の分別及び収集を行っており、現在5名の担当者が業務にあたっています。自社倉庫にて集合回収をし、さらに、分別・管理するなど、再資源化率を高めています。

03 再生可能エネルギー・省エネへの社内における取り組み

再生可能エネルギーの活用も積極的に行っています。事務所本館(5.7kw/h)・新館(8.0kw/h)・別館『hanaco』(37.12kw/h)・モデルハウスの屋根には太陽光発電を設置しており、エネルギーのクリーン化を推進しています。ごみの分別収集の徹底、事務所内の

照明をLED照明に交換する、使用する紙類(手紙・ペーパー類)は、できる限り再生紙を使用するなど、社内でも様々な取り組みをしています。



▲太陽光発電システムを搭載したモデルハウス『hale (ハレ)』。サステナブルというテーマのもと、平屋に仕上がっています。

05 住宅用太陽光発電システムの普及

住宅用太陽光発電システムの普及にも注力しており、株式会社LIXIL TEPCOスマートパートナーズ様と提携し、実費0円で太陽光発電システムを設置できるフリーソーラー事業を積極的に展開しています。2018年7月～2020年6月においては全国での受注件数ランキング2位という結果を出すことができました。また、同事業の累計で太陽光パネル総積載量1268.17kwを達成しており、1年間で約774.2tのCO2削減に貢献しています。



04 プレカット率の向上

“プレカット”とは、木材を工場加工することです。プレカットを利用することで、加工精度を高めるとともに、効率化を図り、現場での残材の発生を減少させます。今後も工場でのプレカット率の向上に取り組んでいます。



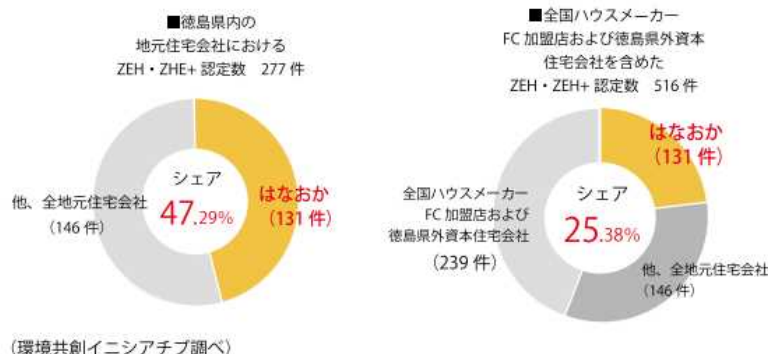
▲プレカット工場見学の様子。大きな工場で木材を加工し、それぞれの現場に配達されます。

HANAOKA column 02 環境に配慮したエコ住宅を企画住宅として発表



はなおかでは2013年5月に、オリジナルエコ住宅『Green NEO (グリーン・ネオ)』を発表。企画住宅としても販売をしていました。『Green NEO』では、パッシブデザイン(エアコンなどの機器をできるだけ使わず、自然にあるものによって快適な暮らしをしようとする設計思想・手法)を採用。また、太陽光発電システムや家中のエネルギーを見える化し管理ができる機器『HEMS (ヘムス)』を搭載するなど、当時では最先端の技術をいち早く導入していました。今後も、現在の環境問題に配慮し、また住宅業界の潮流を見極めて、はなおかは一歩先の家づくりを目指しています。

【徳島県内におけるZEH・ZEH+建築棟数の割合 2016～2020年度】



01 森林を守る活動 『とくしま協働の森づくり事業』



徳島県は県土面積の75%にあたる31万4千ヘクタールを森林が占める全国でも有数の「森林県」です。森林は温暖化の防止や山地災害の防止、水源を守る、木材の供給など多面的機能を有します。弊社にとっても、木造建築工事を主体としており森林との関係は深いつながりがあります。令和2年現在までで8か所の森林を守ってまいりました(現時点では5

か所)。三好市、神山町、徳島市、那賀町、海陽町において、間伐や植栽がおこなってきました。対象面積は合計で36.71ha、森林のCO2吸収量は276.37 t-CO2/年となっています。また、平成29年3月3日と令和元年8月5日の2度に渡り、公益財団法人国土緑化推進機構様より感謝状を頂きました。

02 地盤改良工事への配慮

セメント改良工法を減少させ、環境汚染の低減、リサイクル可能、CO2削減率の最大化、撤去費用発生率低減化などに配慮した地盤改良工事を行っています。小さく砕いた天然石を地中に詰め込んで形成した石柱(パイル)を使い、地盤を補強する砕石パイル工法を積極的に採用しています。

03 『きょうエコプロジェクト』への取り組み



はなおかは、『NPO 環境首都とくしま創造センター』が助成金や活躍の場を提供し、環境学習プログラム等の支援を行う『きょうエコプロジェクト』に、2008年の第1回目から参加しています。『きょうエコプロジェクト』は『協賛企業』と『徳島県』、『徳島県教育委員会』、『NPO 環境首都とくしま創造センター』の協力により実施されています。

01 生涯学習機会の提供

はなおかでは建築させていただいたOB様や、地域の方々のコミュニケーションの“場”を作りたいとの思いで2018年11月に事務所別館として『hanaeco (ハナエコ)』(『hanaoka』+『communication』の造語)をオープンいたしました。“徳島に本物を、地元へ愛着を。”をスローガンとし、OB様主催とするワークショップや、講師を招いてのセミナー等を行っています。今後も地域の皆様に生涯学習機会の提供を継続して取り組んでまいります。



▲『hanaeco』で開催されたお子様向けの『走り方教室』の様子。

02 文化講演会の開催

はなおかでは、株式会社ジャパンライフデザインズ代表取締役 谷口正和様による『ライフスタイルコンセプト』をテーマにした講演会や、松下幸之助様の秘書やPHP総合研究所社長を務められた江口克彦様による『松下幸之助に学ぶいい人生の生き方〜ひとりひとりがもっと輝くために〜』をテーマにした無料講演会などを開催してまいりました。今後も機会をとらえ、取り組んでまいります。



▲無料講演会の様子。

03 建築を志す学生に活躍の場を

建築を志す学生と建築家が目の前で熱くぶつかる毎年京都市で開催されるコンテスト『木の家設計グランプリ』に2015年より協賛しています。「住まいづくりを通して地域貢献できる社会を目指し、人材育成に力を注いでいきたい」という考えのもと、『株式会社はなおか賞』を設け若手設計者の育成を支援しています。



▲2019年『木の家設計グランプリ』の様子。全国から多くの学生さんが参加しました。